

令和2年度第3回城陽市子ども・子育て会議での書面確認への対応について(結果報告書)

令和2年度第3回城陽市子ども・子育て会議については、書面による確認を行う会議の開催としました。各委員から提出されたご意見については、下記のとおり申請者から回答がありましたので報告します。

記

会議開催日	令和3年3月23日(火)	
書面確認依頼日	令和3年3月19日(金)	
書面確認意見締切日	令和3年3月26日(金)	
確認事項	(1)家庭的保育事業の認可について (2)利用定員の設定について	
委員から提出された 主な意見	(1)家庭的保育事業の認可について	(1)への対応
	1. 建物自体の耐震性に問題はないか。	ハウスメーカーに問題無しと確認しています。
	2. 公共交通機関が利用できない施設への移動手段は。昼間里親の時よりも定員増となるため、全員分のチャイルドシートを載せた状態では保育者を含めた乗車が可能な車両が必要となるのでは。	普通乗用車で対応できない場合はタクシーを使用して対応してまいります。
	3. 児童が守られ過ぎるような設備は良くないが、一方で廊下の壁コーナーやDKベンチ椅子のシートクッションの固定法、ミニ園庭内の柱(現状クッション材で保護)の現状の保護方法が気になるので、例えばウレタン製の保護カバー装着などで保護してはどうか。	必要な箇所については適宜、安全に配慮してまいります。
	4. 遊具や仕切りの安全性、園外へ行くときの車、乗り降り、調理場の衛生。子供が増えるなら今以上の安全を確保して欲しい。	より安全で衛生的な対応をします。
	5. 働く子育て世帯が今や当たり前となってきている中で、地域で育てていくという感じで良い。ただ、家庭的保育というものがどういった形で保育されるのか不安なところもあるので、積極的に動画などでPRして欲しい。参観日もあるということなので、保護者、子どもたちが安心・安全であることを第一にお願いしたい。	ミニ運動会やミニ発表会、夏祭りに遠足(京都市動物園、いちご狩り、芋堀)、市民プールなど、他の認可保育園にひけをとらない保育を心掛けてまいります。家庭的保育の最大のメリットである家庭的な雰囲気できめ細やかな保育ができることで、児童と保育者との安定した関係性から愛着関係を築き、子どもの発達を促してまいりたいと考えています。家庭的保育の良さはホームページなども通じて市民の皆さまにしっかりとアピールしたいと考えています。動画の公開については個人情報の取り扱いとなりますので慎重に検討してまいります。
	(2)利用定員の設定について	(2)への対応
	1. コロナ禍のなかで密対策はどうされるのか。定員が2人増え、保育者の負担も増えるので、車の安全なども確保してもらいたい。	新型コロナウイルス感染症への対応については、保育者や調理員がマスク、手洗い、玩具・室内、ミニ園庭の玩具も含め清掃・殺菌などこまめに心掛けてまいります。また、子ども一人当たりの保育室の面積は他の保育園より広さを確保しており、換気も十分に行ってまいります。車については人数が多い場合は安全に気を付けたうえで、タクシーなども利用してまいります。
	2. 子どもたちの安心・安全を第一にどのような配置で保育士さんが保育されるか知りたい。例えば、0歳児には必ず1人がずっと見る、など。午睡時にうつぶせで寝て窒息死する事件なども報道等で聞くので、しっかり対応してくれるのか不安がある。また、定員5名に対し、常駐される保育士さんは3名で調理員が1名の4名ということだが、お散歩に行くときは0～2歳児5名を3名で見るといったことか。	一般の認可園の配置基準は保育士1人で0歳児3人または1・2歳児6人の割合となりますが、当園では乳幼児5人に対し保育士3人の配置を予定しており、十分に手厚い配置と考えています。午睡時の呼吸確認ですが、保育者が0歳児は5分間隔に、1歳児は10分間隔にチェックシートに記入して対応します。窒息死の危険があるうつぶせ寝には十分気をつけてまいります。また、0歳児は1・2歳児とは離し、ベッドを使用し安全を確保しています。近くの公園にお散歩で行くときはご指摘の様に3名の保育者で0～2歳児5名を連れて行きます。0歳児はベビーカーか抱っこ紐で固定し1～2歳児はベビーカーに乗るか、徒歩で保育士の手を握って歩くなど、しっかりと安全に配慮してまいります。